

令和元年度第2回タウンミーティング開催報告

日時：令和2年2月14日（金）

13時30分から15時まで

対象：関西大学留学生別科生（23名）

今回のタウンミーティングの対象は全員が外国籍の学生でした。参加した学生に向けて、市長より「日本を知る～同じこと、ちがうこと、なぜ???～」と題し、講演を行った後、講演の内容を踏まえ意見交換を行いました。

1 講演

前半は、日本や吹田市の特徴について、高度経済成長や少子高齢化といった具体例を交えて説明しました。

後半は、日本に来て不思議に思ったことや興味があること（以下、一部抜粋）を挙げていただき、なぜそう感じるのかを前半の内容を振り返りながら解説しました。

- ・ルールを守る日本の社会はどうしてできたのか。
- ・吹田市のニュータウンと旧市街の違い。
- ・公共の場で足を見せたり、室内でも帽子を被ることは礼儀に欠けるのではないか。



最後に、こうした文化の違いや地域差を確認した上で、次のとおり伝えました。「吹田市の地域を個別に見ても状況は異なりますので、大阪府や吹田市だけを見て日本を理解したことにはなりません。皆さんの母国と共通点や相違点があると思いますが、世界が共通して目指す成熟した社会に向けて日本は先頭に立ってほしいし、私たちもそのようにしていきたいと思います。」

2 意見交換の主な内容

学生 新型コロナウイルス感染症について、吹田市はどのような対策をしていますか。

市長 対策本部を立ち上げ、どうすれば感染を防げるのかといった情報を整理し、冷静に対応します。

学生 少子高齢化が進み人生100歳時代になっていく中で、仕事に対する意識をどう変えるといいですか。

市長 欲望の行き着くところに上限はありません。年収の上限を設定することも考え、より多くのお金を稼ぐためにがむしゃらに働くといったことを見直す“足るを知る”社会が近づいていると思います。

学生 牛乳パックの回収についてどのように考えますか。

市長 昔はビンをリユースしており、牛乳パックは便利さを求めた結果です。環境に配慮するという意味では、今後マイボトルを進めていく社会になっていくと思います。